

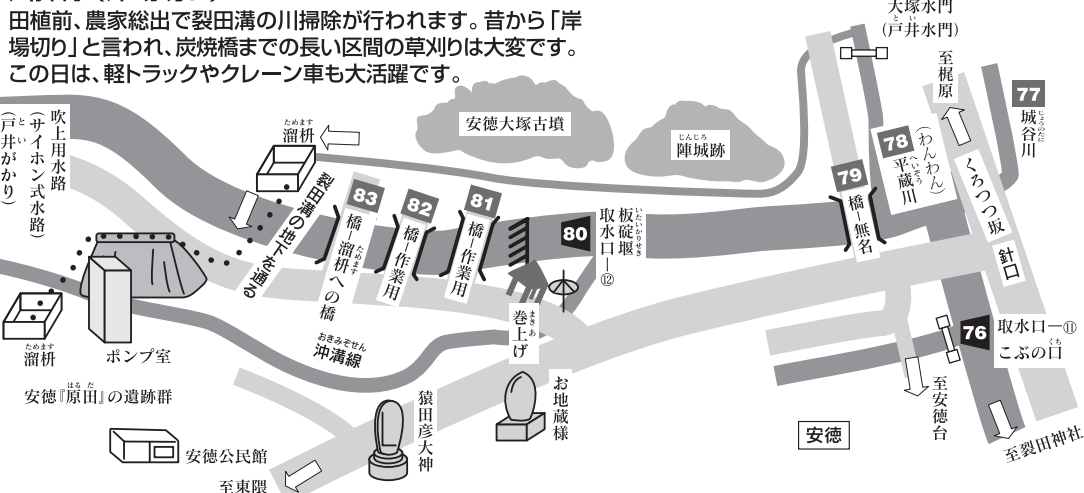
げるように改良されました。『戸井  
 がかり』とも呼ばれ、この方式の水  
 路は以前下梶原にもありました。が、  
 現在ではこだけで使用される珍  
 しい水路です。この水路は時々水不  
 足に見舞われるため、平成5年にポ  
 ンプ室が設置されました。水不足の  
 ときはポンプで地下水を汲み上げ、  
 『吹上用水路』の水と一緒に田畑に  
 送られており、今年は田植前の『荒水』  
 を補うため、1回だけポンプが利用  
 されました。役目を終えた『懸樋』の  
 うち、1本は安徳台に祀つてある『安  
 徳宮』の記念碑として利用され、他  
 は公民館の庭に保管されています。  
 安徳宮の記念碑は懸樋の表面を削  
 り作られ、そこには『安徳宮新築記  
 念碑・平成10年11月建立』と刻印され

A black and white photograph showing a landscape viewed through a rectangular opening in a stone wall. The landscape includes a body of water, a small island with a lighthouse, and a large building in the distance. The photograph is mounted on a page with other text and images.

在りし日の「戸井がかり」  
（現吹上用水路）  
裂田溝と道路をまたぐ珍しい空  
中水路でした。



田植前、農家総出で裂田溝の川掃除が行われます。昔から「岸場切り」と言われ、炭焼橋までの長い区間の草刈りは大変です。この日は、軽トラックやクレーン車も大活躍です。



右、土手の溜枧から送られた水は、裂田溝と道路の地下を通り、対面の三角土手に吹き上げます。那珂川町で1カ所残る貴重な水路です。

次号へ 炭焼橋周辺

(安德 竹原)



平蔵川(戸井水門)



筒型器台（安徳原田遺跡群出土）  
表面が赤く塗られています。  
（高さ約60cm）



お地蔵様(安徳竹原)



猿田彦大神(安德竹原)



## 安德原田遺跡群

区の中に建つ『安徳公民館』周辺は、安徳原田遺跡群の一角で、弥生時代から中世にかけての遺跡が見つかっています。このうち弥生時代のものは、中期の甕棺墓が一基、後期の溝が一条確認されています。また、明治31年には、このあたりで筑紫矛と言われる90cm程の『銅矛』が12本出土しています。これは、祭器として使用されたもので、1本だけが地元に残っています。この北側の田んぼには、条里制の名残でしょうが、『八の坪』と言う小字名が残っています。その他、安徳の竹原には『猿田彦大神』と『お地藏さま』が祀られています。

妻あつてか心配された水不足や大雨の被害もなく、一面黄金色の稲穂路を散策する喜びを語り合いながら、行き交う人々も笑顔いっぱいのお秋です。しかし、この半年間の水利に携わる人たちのご苦労は、大変だったと思います。なかでも安徳区は水系が複雑で、田んぼの水路にも道路の信号機のような堰が幾つもあり、管理と見回りが欠かせません。特に針口にある『板碇堰』の管理はすぐ近くにお住まいの人が担当されていますが、裂田溝の中でも大きなこの堰の管理は大変で、下流域への配水調整はもちろんのこと、梅雨時期には夜中でも雨音に起こされて堰を見回るなど、重要な水管理の一切が任されています。各、受け持ちの

堰守りさん、本当にご苦労さまです。  
私どもは、敬意を込めて『堰守りさん』  
と呼び感謝の意を伝えます。

次号は炭焼橋周辺を紹介します。

大雨に裂田の溝どうどうと  
濁水流れ下田に運ぶ

照子